

慶應義塾大学ビジネス・スクール

アルセロール

5

— ミタル・スチロールとの決着 —

新たな展開

10

アルセロール首脳が講じたセベルスターリとの合併について、アルセロール株主の反応は極めて厳しいものであった。合併にいたる経緯が強引であり、また、ロシア企業に権限を握られることへの危機感から、有力株主からの反対意見が相次いだ。セベルスターリとの合併を発表した後、6月末の株主総会にて決議を予定していたアルセロール首脳陣であったが、再び方針転換を求められることになった。

15

2006年6月25日、アルセロールの緊急取締役会が行なわれ、アルセロールは遂にミタル・スチールの買収に応じることを決定した。ミタル・スチール側が買収条件の大きな譲歩に応じたことや、当面の経営権をアルセロール側が握ることなどから、セベルスターリとの合併よりも、株主、従業員、顧客にとって有効であると判断した結果と思われる。ただし、セベルスターリとの合併計画の撤回には、1億3千万ユーロ（約180億円）の違約金が必要となった。

20

この買収は6月末の株主総会に諮られてから最終決定となるが、統合後の社名は「アルセロール・ミタル」とし、本社はルクセンブルク（アルセロールの本社所在地）に置く。粗鋼生産量は1億1千万トンを超え、世界シェアの約1割となる。これは日本の鉄鋼業全体の生産量を上回ることになり、総売上高は約719億ドル（約8兆3千億円）となる。ミタル側の発表では、この統合効果は当初発表より多くなり、約16億ドル（約1800億円）を見込むことが出来るという。アルセロールのキンヒ取締役会議長とドレCEOはそれぞれ統合新会社の取締役会議長、CEOに就

25

.....
本ケースは慶應義塾大学ビジネススクールの海外ケース作成プランと経営研究所の支援とアルセロール社の協力により、同大学経営管理研究科の許斐義信教授の指導の下、同研究科の竹嶋泰弘が作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/> 慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 許斐義信（2006年6月作成，2008年3月改訂）